



◆ 2017年5月24日発行ラインナップ

- ・創刊500号記念特集
- ・限定復活「遠めがね」
- ・タイムリーな農業情勢をピックアップ

THE MAC JOURNAL vol.500 記念号

お蔭様を持ちまして1995年（平成7年）9月5日に創刊号を発刊して以来、ほぼ月2回の発刊を継続し21年8か月の歳月を経て本号にて500号発刊の節目を迎えることが出来ました。ここに発刊した当時の思いをPLAY BACKしたい。

ご存知の通り、本紙は登録会員の閲覧制ではなく、無料でだれもがいつでも閲覧出来る農業にまつわる情報発信に努めてきた。現在では発刊した記事は当社ホームページに掲載し、また、特約店を中心としてFAXにて自動配信を行い、農業情勢、気象や環境問題、菱肥会の活動報告、肥料に関連した話題を中心に提供してきた。編集局では読み手が飽きないように、2ページの中にもお堅い内容だけではいけないと考え（決して空白を埋めるという目的ではなく）「無用の用」「インテルメツツオ」と称して農業関連とは異なった記事も掲載するよう心掛けてきた。また、「遠めがね」は当時の代表者がメッセージを発信、読者の方々より様々な反響を頂戴してきた。創刊年は食管法が廃止され新食糧法施行やミニマムアクセスが開始、翌年には肥料原料高騰による肥料価格の期中改定がなされた日本農業史にも残る変革の年であった。世界の肥料業界の動き、ホームセンターの肥料取扱が台頭、多収穫増産から良食味米品種への栽培移行期でもあり、水稻における高度化成肥料使用量の減少やコメ食味計が市販されてきた時代でもあった。また、環境問題で肥料がクローズアップされ特別栽培やJAS法に見合う肥料の登場、土壤診断による適切な施肥指導、緩効性窒素肥料の普及が本格的に始まった年代でもあった。特集として各特約店の代表や幹部のスタッフの皆様にも執筆頂いた。当時の農業情勢の中で思うことや激動の荒波を乗り越えるための営業方法についてコメントを頂き、読み返してみても今でも通用する内容が掲載されている。農業分野は大きな変動が少ない業界だとされてきたが、ここ最近では20年前と同じ大きな変革が断行されており、時流を見極める必要がある。これからもTHE MAC JOURNALは最新の農業情勢を提供し読者の皆様と共に歩みを重ねて参りたいと考えております。これからもご愛読のほど宜しくお願い申し上げます。



「MACジャーナル500号発刊」に寄せて

1995年のある週末、オフィスに一人ぽつねんと残業をしている男、故原田雅夫君（当時原料部長）を見出しました。彼は毎週末、魚粉や菜種粕等有機原料の市況を取り纏め、所謂『原田メモ』として個人的に特定の取引先に情報提供していたのです。これを奇貨とし肥料取引全般をカバーする情報紙「MAC週報」と仕立て直したところ評判も良かったので、より専門的且つ判り易さを編集方針として創刊したのが「MACジャーナル」です。爾来休むことなく22年を経て今回500号とのこと、創刊に携わった者として将に感無量であり、ここまで育てて頂いた愛読者その他関係者に心より敬意を表します。農業を取り巻く環境は変貌の度を速め、今まで以上に的確な情報と知見が求められています。継続は力なり、「MACジャーナル」の一層の発展を祈念しています。

当社二代目取締役社長 吉部 宏

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成7年	397,072	411,500	411,140	407,660	407,295	407,295	407,295	407,295	407,295	407,295	407,295	407,295
合計	4,766,889	4,766,889	4,766,889	4,766,889	4,766,889	4,766,889	4,766,889	4,766,889	4,766,889	4,766,889	4,766,889	4,766,889

1995年創刊号。当時はFAX配信のみの為、白黒印刷だけだった

当時 MJ で紹介したタイムリーな農場情勢をピックアップ



1996年5月21日発行 vol. 18 ほか 広がる狂牛病の波紋

イギリスで発生した狂牛病。時をおいて日本でも疑似症例が発生した。飼料原料のみならず有機質のリン酸肥料原料として活用された輸入肉骨粉の利用停止措置が2001年10月にあり、代替原料の確保に追われた。現在では蒸製骨粉の利用が許可、また直接牛が肉骨粉入り肥料を誤食しないよう注意喚起することで使用が緩和されている。

【1996年の出来事・流行】

アトランタオリンピック、「Yahoo! JAPAN」がサービスを開始

ドラマ「ロングバケーション」放映

ルーズソックス・アムラーファッションが流行



2001年4月25日発行 vol. 131 史上初のセーフガード発動

2001年4月23日にネギ・生しいたけ・畳表の農産3品に対して日本で初めてセーフガードが暫定発動された。当時は輸出大国である日本が輸入制限を実施したことで大論争となり、現在もこの3品は中国をはじめとして輸入されている状況に変わりない。い草においては国内の住宅事情も様変わりした事もあり、昭和54年の9,726haを最大として平成13年度は1,992ha、最近の統計では平成24年度統計で854haまで作付面積は激減している。

【2001年の出来事・流行】

愛子内親王誕生、ディズニーシー・U.S.J開園

ドラマ「ビューティフルライフ」 映画「千と千尋の神隠し」

ローライズジーンズ・柄タイツが流行

2005年1月26日発行 vol. 217 大詰めを迎えるEPA交渉

2003年1月にシンガポールとEPA（経済連携協定）締結したのを皮切りにFTA（自由貿易協定）を締結してきた。時を経て昨年合意したTPP協定は記憶に新しいところ。1995年に発足したWTOの多角的貿易交渉は当時アメリカの譲歩を勝ち取り糾余曲折を得て妥結した経緯はあるが、TPPに至ってはトランプ大統領就任後にアメリカは離脱し混迷が伺える。

【2005年の出来事・流行】

「愛・地球博」開催、ディープインパクト三冠制覇

iTunes MusicStore・着うたフルがヒット

ドラマ「ごくせん 第二シリーズ」 映画「ハウルの動く城」

《OBからのメッセージ》 「500号」と言えば、生涯ホームラン数が「500号以上」は大記録で、わが国には8人しかおりません。「500号」は民間のニュースレター発行数としても誇れる数字でしょう。毎月2回として20数年の歳月が経ったわけで、読者の支え無くして到達は不可能です。当時、吉部社長の発案の下で編集長を務めましたが、日頃の肥料ビジネスでは得がたい「情報の価値」と「定期発行のスリル」(時間との闘い)を味わえたのは幸せでした。今後もMACのアンテナから発信される情報を楽しみにしています。(MJ初代編集長 矢内清長)

私がアシスタントとして関わり始めて400号(!)余り経ちます。取引先の方に名前を知つて頂ける機会になりました。これからも紙面を通して皆様と繋がっていきたいと思いますので、今後ともご愛読の程、宜しくお願ひ申し上げます。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp